

六郎手打に致之之由申候。其刻喜六郎手負申候共申候。
又瀧山之儀も自放火仕候而、神介牛之助罷除之由申候。
併落所不承与申候。重而押返し目付を差越申候條、御吉
左右以夜日に次、御注進可申上候。此旨宜預御披露候。
恐々謹言。

〔長〕 文書 金澤
五月六日卯

安部右衛門尉

政 吉 在判

丸田掃部助

俊 次 在判

田中大藏少輔

尙 賢 在判

樋口與六殿

七月十八日。織田信長、長連龍に、その遊佐續
光等を誅せるを報じたるに答ふ。

〔長〕 文書 金澤 一六九七

爲音問、肩衣之戻十、並鯖鮓三百到來候。懇情喜入候。次
遊佐事、依惡逆申付、達本意候由尤に候。猶參上之時可

申候也。

〔長〕 文書 金澤
七月十八日

信 長 在判

長九郎左衛門尉

〔長〕 文書 金澤 一六九八

長九郎左衛門尉かたより音信、則遣一札候。猶相心得可
申聞候。委細歸國之時可申聞候也。

〔長〕 文書 金澤
七月十八日

信 長 在判

菅屋九右衛門尉殿

七月廿三日。菅屋長頼、長連龍に、織田信長が
鹿島半郡内の舊石動山新神領を知行せしめられ
たることを報す。

〔長〕 文書 金澤 一六九九

以上

先年謙信當國に亂入以來之石動山新神領、貴所にて御朱
印被仰付候。鹿島半郡内に有之新神領者、上様無御存
知事に候之條、貴所被任御朱印之旨、可有御知行候。

相違有間敷候。恐々謹言。

天正九 七月二十三日

菅屋九右衛門尉

長 頼 在判

長九郎左衛門尉殿

御宿所

七月廿七日。菅屋長頼、羽咋郡氣多社に、その
社務領を安堵せしむ。

〔氣多神社文書〕 羽咋郡 一七〇〇

一宮之儀、去年於安土如相定候。彌社務分目所々之免田
不可有相違候。急度修理建立可有之者也。仍如件。

天正九年 七月廿七日

長 頼 在判

一宮惣中

〔氣多神社文書〕 以上 一七〇一

熊令啓候。仍而一宮之儀、無隠大社之由候處、上儀

〔御禮ニ不罷出之事、言語道斷ニ候。明日其地迄罷出候
條、一兩人同心可申、可被得其意候。恐々謹言。〕

〔長〕 文書 金澤
八月十七日

岩越小兵衛 吉 久 在判

一宮 中 參

〔氣多神社文書〕 以上 一七〇二

尚々監物殿へ以別番可申候へ共、諸事執紛候條如此
候。以上。

御狀何茂拜見仕候。仍御社領中へ從彼方違亂之儀不及
是非候。尤九右衛門方より可被申遣處、攝州へ爲御使
被罷越候之條、先拙者書狀を遣候。猶替儀有之者、櫻監
御登可爲尤候。委曲縫殿助殿可被仰候條、不能審候。
恐惶謹言。

〔長〕 文書 金澤
八月廿一日

岩 小兵 吉 久 在判

一宮惣中

御報